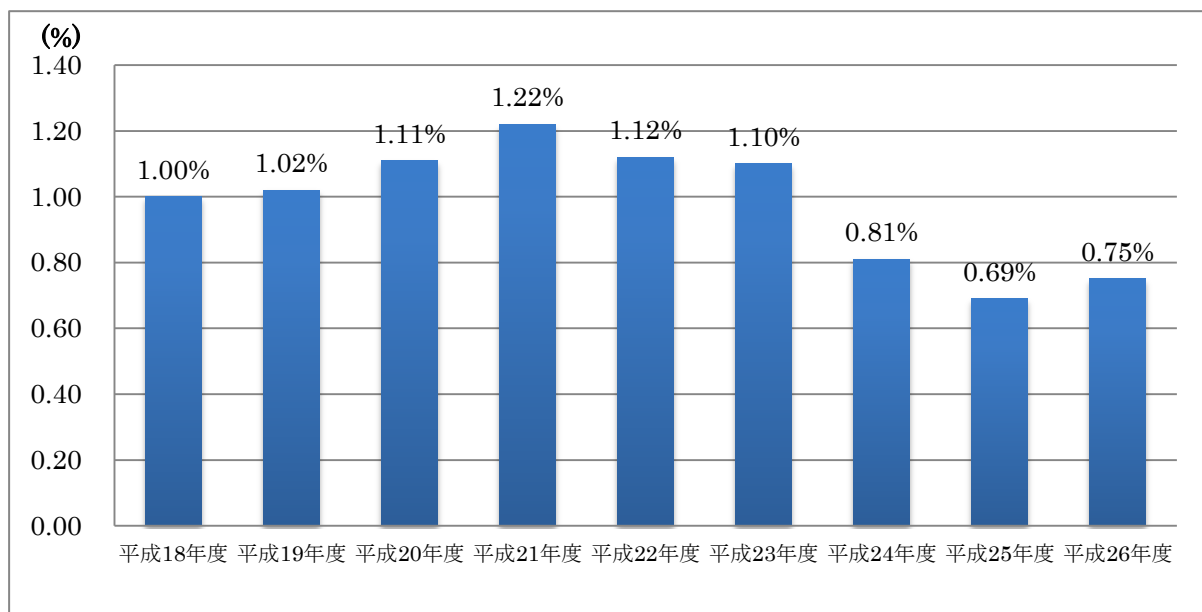


## 6. 褥瘡発生率



褥瘡は患者の QOL の低下を招き、在院日数の長期化や医療費の増大にもつながるため、褥瘡予防対策は医療、ケアの重要な評価項目の一つである。

褥瘡対策実務委員会(以下、実務委員会)により、積極的な予防策、早期の治療・ケアが行われ、重症化する患者は減少している。また褥瘡発生の危険性が高い患者に対し、皮膚・排泄ケア認定看護師が積極的に関わることで各病棟の技術の向上、意識の向上も図られ、平成 21 年を境に順調に褥瘡発生率は減少してきたが、年間平均 1%を下回ることはなかった。そこで実務委員会で検討し、褥瘡保有患者数が多い病棟を集中的に回診し、体圧分散マットレス供給率を基に、高機能エアーマットレス台数を増やし、そして病棟のニーズに合わせて実践に役立つ内容を盛り込んだ勉強会を開催した。その結果、平成 24 年度以降の褥瘡発生率は 1%を下回ることができている。これは実務委員会の活動の成果とともに、看護師の褥瘡対策に対するケアの質向上によるものと考えられる。今後もこの結果に満足せず、積極的な褥瘡対策に取り組んでいきたい。

データ提供 看護部公衆衛生看護科